

## 精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：社会医療法人慈生会 ウェルフェア九州病院 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名：鮫島 稔弥

住 所：〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町 191 番地

電話番号：0993-72-0055

F A X：0993-72-1199

E-mail：[jiseikai@wkh.or.jp](mailto:jiseikai@wkh.or.jp)

- 専攻医の募集人数：(3)人

- 専攻医の募集時期：毎年6月1日から翌年3月1日まで

- 応募方法：

書類はWordまたはPDFの形式にて、E-mailにて提出してください。

電子媒体でデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出してください。

- ・E-mailの場合：[jiseikai@wkh.or.jp](mailto:jiseikai@wkh.or.jp)宛に添付ファイル形式で送信してください。その際の件名は、「専門医研修プログラムへの応募」としてください。
- ・郵送の場合：〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町 191 番地宛に簡易書留にて郵送してください。また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載してください。

### ◆提出期限◆

毎年8月31日必着

- 採用判定方法：一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。

## I 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

### 2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

### 3. 専門研修プログラムの特徴

民間精神科病院が基幹施設である本プログラムは、我が国の精神科病床のほとんどが民間精神科病院であるという現実に即し、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。

ウエルフェア九州病院は鹿児島県枕崎市にある精神科単科病院で、南薩地域における中核的な精神科病院として60年の歴史を持ち、地域に根差した精神科医療を実践している。精神科救急医療に取り組み、社会医療法人としての認可を受けている。入院機能では精神科急性期病棟、認知症病棟、精神療養病棟を持ち、急性期から慢性期の入院対応を行い、任意入院から措置入院まで対応している。外来機能としては認知症疾患医療センター、関連施設として訪問看護ステーション、地域活動支援センターがあり、思春期から老年期までの疾患に対応し、訪問診療、往診などの在宅医療なども行っている。一方、本プログラムでは、関連病院としてつながりの深い東京医科大学病院と連携して総合病院での専門医研修を行い、都市部での研修も行えるような幅広い研修体制を目指している。また民間病院として東京都八王子市の西八王子病院と連携して幅広い医療領域と地域医療を研修できる体制を目指している。

私たちはこれからも治療至上主義に陥ることなく、患者さんの人権を尊重し社会で安心して生活できるよう、お手伝いをさせていただきたいと思う。本プログラムは3年間のプログラムの中で多彩な症例や地域精神科医療のアプローチを学び、民間精神科病院の特徴を生かし、地域医療を中心とした精神医学や障害福祉の現場をともに学ぶことを目標としている。

○ 研修基幹施設：ウエルフェア九州病院

精神科専門医研修施設、卒後臨床研修病院、医科大学の臨床実習病院とし

てこの地域における精神医学教育・研修の主要な役割を担う。この地域では60年にわたり精神科臨床の中核として、充実した精神医療、教育研修の体制を整えている。精神科医療全般に渡る幅広い知識や技能を習得するための施設として、急性期から慢性期、身体合併症医療に至るまで多くの症例を経験することができる。

#### ○ 連携施設：東京医科大学病院

大学病院として後期研修医の教育と指導に中心的な役割を果たしている。その中でメンタルヘルス科は精神科専門医を目指す後期研修医は専攻医を希望しているものも多い。研究体制は充実し大学院生も毎年2から5名の応募があり活発な研究成果を上げている。大学病院であるという特徴を生かし他の診療科と連携したリエゾン・コンサルテーションの症例も数多く扱っている。コアコンピテンシーの習得など学内全体で他科の専攻医とともに研修する機会を持つことができる。大学病院ならではの充実した教育スタッフを擁しており、基礎的な学問への導入や、他科の医師とのディスカッションを通して臨床以外の学際的な考え方に 関わりを持つことができる。

#### ○ 連携施設：西八王子病院

東京都八王子市にある182床を持つ精神科病院であり、一般病床を45床併設している。東京都で初めてのストレスケア病棟を開設し、うつ病うつ状態治療に特化したアメニティと治療プログラム（集団認知行動療法プログラム、運動療法プログラム）を行っている。また医師、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療を実践している。急性期治療病棟では重篤な症例や統合失調症など精神病圏の症例を主に治療を行っている。多職種によるカンファレンスを行い、治療パスを応用しながら3ヶ月間での治療を目標に精神療法、薬物療法、作業療法、治療教育プログラムなどを行っている。一般病棟、療養病棟では、急性期治療後の治療に加え生活療法や退院に向けての環境調整を行っている。さらにリエゾン病棟として45床の内科病棟を備えており、腎透析療法をはじめとした精神科合併症疾患へも対応しており、急性期から身体合併症やリエゾン領域まで幅広い研修を実施できる体制を構築している。社会復帰訓練施設併設と老人保健施設を併設しており、精神障害者の社会復帰の実際から、医療介護の連携の現場まで学ぶことができる。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

■プログラム全体の指導医数：( 15 )人

■昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	801	243
F1	111	34
F2	1920	198
F3	2990	273
F4 F50	1504	58
F4 F7 F8 F50	243	45
F6	174	23
その他	228	32

## 2. 連携施設名と各施設の特徴

### A 研修基幹施設

- ① 施設名：ウエルフェア九州病院
- ・施設形態：民間病院、単科精神科病院
  - ・院長名：鮫島 稔弥
  - ・プログラム統括責任者：鮫島 稔弥
  - ・指導責任者氏名：鮫島 稔弥
  - ・指導医人数：（ 4 ）人
  - ・精神科病床数：（ 175 ）床
  - ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	353	110
F1	20	9
F2	204	31
F3	381	41
F4 F50	221	8
F4 F7 F8 F50	63	9
F6	2	0
その他	59	0

#### ・施設としての特徴

鹿児島県枕崎市にある単科精神科病院である。精神科救急の要件を満たす社会医療法人の開設病院として、南薩精神科医療圏の精神科救急システムにおける二次拠点病院として、措置入院、応急入院、医療保護入院などの精神科救急や時間外診療に対応している。認知症治療病棟（50床）、精神療養病棟（閉鎖46床）、精神療養病棟（開放47床）、精神科急性期治療病棟（32床）の4病棟（175床）の機能を有している。措置入院・応急入院指定病院であり、措置・緊急措置・応急入院の対応も可能である。病院関連事業として精神科デイケアを有し、認知症疾患医療センターとしては当地域の認知症治療の中核を担っている。法人関連施設として、地域活動支援センター、社会復帰アパートを有する。医師、薬剤師、看護師、臨床心理士、作業療法士、放射線技師、栄養士、精神保健福祉士などの多職種によるチーム医療を行い、関連事業・施設や地域の医療機関等と連携し、入院から退院、退院後の支援を行っている。急性期から回復期、在宅復帰支援などの治療病棟を中心とした入院精神科医療全般について学ぶことができる。思春期から老年期、身体合併症など、対象としている疾患は多岐に及んでいる。入院症例は認知症、統合失調症、気分障害、物質依存など精神科医として最低限知っておかな

ければならない疾患についてカバーしている。

クロザリル登録医療機関であり、治療抵抗性の統合失調症患者に対してクロザリルを使用した治療を行っている。

地域の特性として高齢者の割合が高く、また認知症疾患医療センターを設置していることもあり、認知症患者の相談件数が多く、ICD-10 全般の症例を扱っている。

常勤医のうち、6名が精神保健指定医、内5名が精神科専門医、内4名が精神科専門医指導医であり、これまで当院在籍中に、5名が精神保健指定医を取得しており、積極的に公的な業務や指導にあたっている。

## B 研修連携施設

- ① 施設名：東京医科大学病院
- ・施設形態：大学病院
  - ・院長名：三木 保
  - ・指導責任者氏名：榊屋 二郎
  - ・指導医人数：（ 8 ）人
  - ・精神科病床数：（ 19 ）床
  - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	378	32
F1	74	9
F2	756	63
F3	1544	72
F4 F50	968	18
F4 F7 F8 F50	111	5
F6	152	15
その他	167	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 2016 年に創立 100 周年を迎え、都心に位置する特定機能病院として、良質で高度な医療を提供することを使命としている。標準治療はもとより、新規医療技術の開発や種々の臨床研究を積極的に行っている。また、「チーム東京医大で安心・安全な医療の提供」をテーマに、医療安全とインフォームドコンセントを徹底することで、患者さん中心の医療と信頼関係の構築を心がけている。

メンタルヘルス科の診療は、メンタルヘルス科病棟、メンタルヘルス科外来、コンサルテーション・リエゾンサービスの3つの柱に分かれている。

- ・当科病棟には 19 床の閉鎖病棟を持ち、約 10 人/月の新入院患者を受け入れている。薬物療法、精神療法、環境調整が治療の主体であるが、治療抵抗例には修正型電気けいれん療法を行う。
- ・当科外来では約 3600 人/月の診療にあたっており、全国 80 大学病院の中でも屈指の外来患者数であり、それだけに多彩なケースを診ることができる。
- ・総合病院のメンタルヘルス科として、約 60 人/月の患者に対しコンサルテーション・リエゾンサービス（CLS）を行っている。

これらの3つの柱がお互いを補完する形で診療が成り立っている。例えば、外来治療で入院を要する状態になったら病棟にて治療をし、軽

快したらまた外来治療に移行する。一方、CLS では内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科的治療にあたっているが、その中には身体状態が安定してからも精神科治療の継続が必要なケースも多く、その場合当科病棟または外来にての治療に移行する。

このような診療体制の特性から、うつ病や統合失調症といった主要疾患のみならず、不安障害、摂食障害やパーソナリティ障害から器質性・症状性の精神障害まで、幅広い診療を行うことができる。

また、社会人大学院へ入学することにより、働きながら4年で学位を取得できる。現に、連携病院である成仁病院からは3名の医師が学位を取得しており、令和元年度現在も1名、翌年度からも3名入学を予定している。

当科の診療スタンスは、基本的に「目の前にいる患者は全て診る」というところにある。新宿という立地、地域の医療機関との連携もあり、多彩かつ十分数の患者が外来に集まってくる。現代のストレス社会を生きている人間は様々なストレスにさらされ、そのために多彩な症状を呈することがある。一方、身体疾患において、常に「こころ」は影響を受け、様々な精神的反応や症状が生じる。こうした事例に対応するリエゾン精神医療は医学が高度になればなるほど大切なものとなり、その知識は全ての臨床医に必要と言える。将来、臨床医を目指す学生が身体疾患のみならず、精神面への配慮を常に行い、全人的医療を行っていただけることを望んでいる。



- ② 施設名：医療法人社団 明和会 西八王子病院
- ・施設形態：民間病院、一般病床併設精神科病院
  - ・院長名：三根 芳明
  - ・指導責任者氏名：三根 芳明
  - ・指導医人数：（ 4 ）人
  - ・精神科病床数：182床
  - ・疾患別入院数（平成30年度）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	70	101
F1	17	16
F2	960	104
F3	1065	160
F4 F50	315	32
F4 F7 F8 F9 F50	69	31
F6	20	7
その他	2	32

・施設の特徴

当院は東京都八王子市に位置し、1998年に東京都で初めてのストレスケア病棟を開設し、うつ病うつ状態治療に特化したアメニティと治療プログラムを備えている。中でも集団認知行動療法プログラム、運動療法プログラムはうつ病への治療効果の有用性が確認されてきており他院でも行われている施設は少ない。また医師のみならず、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療を実践している。急性期治療病棟では重篤な症例や統合失調症など精神病圏の症例を主に治療を行っている。週に1度多職種によるカンファレンスを行い、治療パスを応用しながら3ヶ月間での治療を目標に精神療法、薬物療法、作業療法、治療教育プログラムなどを行っている。一般病棟、療養病棟では、急性期治療後の治療に加え生活療法や退院に向けての環境調整を行っている。これら精神科病床（182床）に加えさらにリエゾン病棟として45床の内科病棟を備えており、腎透析療法をはじめとした精神科合併症疾患へも対応している。

社会復帰に向けた自立訓練事業所である「川口ハイツ」定員20名を併設しており、地域の障害者を支援するために、訪問看護やデイケア活動を行っている。また患者家族会を定期的に行っている。さらに施設内には老人保健施設ウエストケアセンター（125床）を運用している。

サテライトクリニックとしては、八王子市内にストレスケアクリニッ

タイムス八王子があり、うつ病圏休職者の職場復帰をサポートする復職  
デイケアを行っている。

当院は以上の精神科を中心とした入院治療、外来治療、社会復帰、地域  
サポート、内科的治療を軸とした精神科治療をトータルに習得すること  
ができる。また、精神科指導医4名体制で求められる基礎的面接、診  
断、治療などの技術を学ぶことができる。なお当院はIMSグループ板橋  
中央総合病院、横浜旭中央総合病院、春日部中央総合病院、新松戸中央  
総合病院、東戸塚記念病院、行徳総合病院よりの臨床研修医教育を受け  
入れている。

### 3. 研修プログラム

#### 1) 全体的なプログラム

我が国の精神科医療の大部分を占める民間精神科病院を基幹としたプログラムであり、将来精神科専門医として実践的な精神医療がおこなえるための一般的な素養を身につけることを目指したプログラムである。その目的のため地域で精神医療の中核を担っている単科精神科病院を中心にローテートする。そこでは地域の中で活動している様々なサービスに参加し、地域で生活する精神障害者への訪問診療についても経験する。精神科救急や措置入院患者への対応を通して一般的な精神科臨床の基礎を学ぶと共に、精神保健福祉法、医療観察法など精神科医が知っておかなければならない法律の知識を学習する。慢性期精神疾患の中には長期入院となった最重度の症例も含まれており、精神科医療が抱える様々な諸問題についても肌を通して体験することによって、これらの問題の解決には何が重要なかなど、自ら学び考える態度を養うことになる。一方で、単科精神科病院では体験することができない身体科との協働作業やリエゾン・コンサルテーション症例、また特殊な疾患について学ぶこと、また基礎的な学術的素養を身につけるために補完的に大学病院での研修を1年間行うことにしている。全プログラムをとおして医師としての基礎となる課題探求能力や問題解決能力について、一つ一つの症例をとおして考える力を養う。また論文を集め症例発表し、それを論文としてまとめる過程を経験することで、様々な課題を自ら解決し学習する能力を身につける。

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。

各年次の到達目標は以下の通り。

#### 2) 年次到達目標

- ・1年目:指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。入院患者を指導医と共に受け持つことによって、行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習する。外来業務では指導医の診察に陪席することによって、面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。
- ・2年目:指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と

治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。他科と協働してリエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。児童思春期の症例についても経験する。院内のカンファレンスで発表し討論する。さらに論文作成や学会発表のための基礎知識について学び、機会があれば地方会等での発表の機会をもつ。

- 3年目:指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。緊急入院の症例や措置入院患者の診察に立ち会うことで、精神医療に必要な法律の知識について学習する。地域医療の現場に足を運び、他職種との関係を構築することについて学ぶ。地方会や研究会などで症例発表する。研究所にて発行している学術誌への投稿を行う。

### 3) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

### 4) 個別項目について

#### ① 倫理性・社会性

地域連携をとおして社会で活躍する他職種の専門家と交流する機会が多くあり、その中で社会人として常識ある態度や素養を求められる。また社会の中での多職種とのチームワーク医療の構築について学習する。連携している医科大学では他科の専攻医とともに研修会が実施される。リエゾン・コンサルテーション症例を通して身体科との連携を持ち医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

#### ② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がる問題を日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とする。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心

がける。

③ コアコンピテンシーの習得

日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)を高める機会をもうける。法と医学の関係性については日々の臨床の中から、いろいろな入院形態や、行動制限の事例などを経験することで学んでいく。診断書、証明書、医療保護入院者の入院届け、定期病状報告書、死亡診断書、その他各種の法的書類の記入法、法的な意味について理解し記載できるようになる。チーム医療の必要性について地域活動を通して学習する。また院内では集団療法や作業療法などを経験することで他のメディカルスタッフと協調して診療にあたる。自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担う。

④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

経験した症例の中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。連携施設東京医科大学病院の大学機関紙に経験した症例について投稿し、査読制が敷かれた学会誌へ論文を投稿するための基礎を学習する。連携施設東京医科大学病院において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文(学内誌を含む)として発表する。日本精神神経学会総会、地方会、日本精神科医学会には必ず参加して、少なくとも共同演者として学会発表に参加する。

⑤ 自己学習

毎週木曜日 14 時に急性期病棟での多職種ケアカンファレンスを行う。16 時に診療部会を開催し症例検討会と認知症疾患医療センターの事例検討会を行い、エビデンスに基づき知見を広めていく。

6) ローテーションモデル

基幹病院と連携病院をローテートして研修を行っていくが、その内容は専攻医の希望、各病院の状況により自由に組み替えることが可能である。基幹病院の常勤は 6 ヶ月以上、連携病院の常勤は 3 ヶ月以上を条件とする。

基本モデルでは、専攻医研修マニュアルに沿って各施設を次のようにローテーションし、年次ごとの学習目標に従った研修を行う。

ローテーションモデル

1 年目	2 年目	3 年目
基幹病院 A にて研修	基幹病院 A にて研修 (9 ヵ月) 連携病院 C にて研修 (3 ヶ月)	連携病院 B にて研修

基幹病院 A にて研修	基幹病院 A にて研修 (6 ヵ月) 連携病院 C にて研修 (3 ヵ月) 連携病院 B にて研修 (3 ヵ月)	連携病院 B にて研修
-------------	---	-------------

連携病院 B にて研修	連携病院 B にて研修 (9 ヵ月) 連携病院 C にて研修 (3 ヵ月)	基幹病院 A にて研修
-------------	--	-------------

A : ウェルフェア九州病院

B : 東京医科大学病院

C : 西八王子病院

初年度：A ウェルフェア九州病院

2年度：A ウェルフェア九州病院、B 東京医科大学病院、C 西八王子病院

3年度：B 東京医科大学病院、C 西八王子病院

初年度は A ウェルフェア九州病院にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身につける。患者及び家族との面接技法、疾患の概念と病態理解、診断と治療計画、補助診断、薬物・身体療法、精神療法心理社会療法、リハビリテーション、関連法規に関する基礎知識を学習する。

2年度は A ウェルフェア九州病院、C 西八王子病院において、統合失調症、気分障害、精神作用物質による精神行動障害などそれぞれの疾患がもつ特徴を把握して、個別の対応を学習する。現場の実践を通じた精神医療の実際を学習する。精神科救急輪番当直に参加して指導医とともに非自発入院患者への対応、治療方略、家族面接などに従事する。精神保健福祉法、心神喪失者医療観察法など精神科医が知っておかなければならない法的な知識について、実際の医療現場を通じて学習する。指導医のスーパーバイズを受けながら単独で入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学ぶ。地域連携、地域包括ケアの実際を主治医として体験することによって、地域医療の実際を学習する。地域社会に展開する他職種との連携をおこなうことにより、地域で生活する認知症患者や統合失調症患者に対する精神医療の役割について学習する。自己学習の時間には連携施設である B 東京医科大学病院において研究に従事し論文作成を行うことができる。

3年度は B 東京医科大学病院にてリエゾン・コンサルテーションを中心とした特殊な病態について学習する。m-ECT の手順や特徴、効果、副作用について学ぶ。他科と協働して一人の患者に向き合うことでチーム医療におけるコミュニケーション能力を養う。より深く探求を希望する者は、東京医科大学病院の社会人大学院に在籍しながら研究を進めるほか、同病院の指導のもと査読付き論文の書き方を学ぶこともできる。指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。救命救急センターで精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。地域医療の現場に足を運び、他職種との関係を構築することについて学ぶ。地方会や研究会などで症例発表する。大学にて発行している学術誌への投稿を行う。また、C 西八王子病院においてストレスケア病棟でうつ病の認知行動療法や復職デイケア

の実際を学ぶことができる。

上記を参考例として、専攻医の希望や各病院の状況により変更が可能で、専攻医が自由に選択できることが特徴である。したがって、最初に連携病院の研修からはじめて、ついで基幹病院の研修を行うことも可とする。評価はカリキュラム制（単位性）によって行われる。

- 7) 研修の週間・年間計画  
詳細は別紙を参照。

#### 4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会
  - 医師：鮫島 稔弥
  - 医師：鮫島 秀弥
  - 医師：鮫島 三恵子
  - 医師：榊屋 二郎
  - 医師：三根 芳明
  - 薬剤師：川畑 拓誠
  - 看護師：有園 亜美
  - 精神保健福祉士 前田 美恵子
  - 作業療法士 辻本 貴志
- ・プログラム統括責任者  
鮫島 稔弥

- ・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

#### 5. 評価について

##### 1) 評価体制

専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者(鮫島稔弥)およびプログラム管理委員会(4に記載したメンバー)で定期的に評価し、改善を行う。

##### 2) 評価時期と評価方法

- ・3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。



- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿/システムを用いる。

### 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

A ウェルフェア九州病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

- ・専攻医研修実績記録「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。
- ・指導医による指導とフィードバックの記録  
専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。

勤務(日勤) 9:00~17:00(休憩 45分)

当直勤務 17:00~翌9:00

休日 ①日曜日 ②国民の祝日 ③法人が指定した日

年間公休数は別に定めた計算方法による。

年次有給休暇を規定により付与する。

その他、慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則

に規定されたものについては請求に応じて付与できる。

それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。ただし自己学習日についてはいずれの施設においても出勤扱いとする。また本プログラム参加中の者には精神神経学会総会、同地方会、日本精神科医学会への出席にかぎり交通費を研修中の施設より支給する。

2) 専攻医の心身の健康管理

安全衛生管理規定に基づいて一年に2回の健康診断を実施する。検診の内容は別に規定する。産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

3) プログラムの改善・改良

研修施設群内における連携会議を定期的で開催し、問題点の抽出と改善を行う。専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。

4) FDの計画・実施

毎年2名の研修指導医には日本専門医機構が実施しているコーチング、フィードバック技法、振り返りの促しなどの技法を受講させる。研修基幹施設のプログラム統括管理責任者は、研修施設群の専門研修指導医に対して講習会の修了やFDへの参加記録などについて管理する。

別紙A ウェルフェア九州病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
午前	外来陪席	認知症疾患医療センター業務	外来業務	外来陪席	外来業務	
午後	病棟業務	自己学習	病棟業務	症例検討会(毎週) 診療部会(月2回)	病棟業務	
夜間	当直(月2回程度)					

- ・診療部会で入退院カンファレンス実施。認知症疾患医療センターを受診した症例検討を実施。
- ・院内研修を毎月2回開催。
- ・退院支援ミーティングを月1回開催。

年間予定

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会、院内学会
7月	鹿児島精神神経学会
8月	かかりつけ医認知症対応力向上研修
9月	日本精神科医学会学術大会
10月	
11月	
12月	鹿児島精神神経学会
1月	九州精神神経学会
2月	
3月	

その他、院内研修を毎月2回開催しており、行動制限、感染対策、医療安全は参加必須。医師会が開催する「医業倫理」「感染対策」「医療安全」「認知症サポート医研修」「自立支援法医師意見書研修会」「介護保険医師意見書研修会」などの各研修会に参加する。

上記学会へは指導医と相談の上、業務に支障のない範囲で参加。学会・研修等は上記の他、必要と認めた研修に参加可能。

別紙B 東京医科大学病院メンタルヘルス科

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟業務	教授外来 陪席	病棟業務	教授外来 陪席	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務 抄読会・ 医局会	病棟業務	病棟業務 当直（週1 回）	病棟業務 コンサル テーション・リ エゾン研修	病棟業務	

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加 東京医科大学医学会総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	東京医科大学医学会総会参加
12月	
1月	
2月	
3月	

別紙C 西八王子病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
8:50	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
9:00	デイケア	訪問看護	こころの クリニック クイムス 八王子 (主に診察)	外来	心理診断	作業療法
12:00						
13:00	病棟回診 急性期 カンファ レンス (15:30)	病棟回診	こころの クリニック クイムス 八王子 (主にデ イケア)	病棟回診	病棟回診 ストレス ケアカン ファレン ス (15:15)	
17:15		検討会				

年間計画

	オリエンテーション
5月	
6月	精神神経学会学術総会
7月	日本うつ病学会 日本産業精神保健学会
8月	
9月	CMS学会
10月	東精協学会
11月	
12月	
1月	
2月	IMS学会
3月	

その他院内研修を毎月開催しており、様々な研修に参加することができる。学会へは指導医と相談の上、業務に支障のない範囲で参加。学会・研修等は上記の他、必要と認めた研修に参加可能。

別紙A)、B)、C)いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。